

# 教育だより

## 平成23年度教育行政重点施策

### 三芳教育の目標

三芳町教育委員会は、人権尊重の精神を基調とし、三芳町民憲章に則し、

◆ 未来を切り拓き社会の変化に主体的に対応できる知性を高め、心身ともに健康で感性豊かな心と創造性をはぐくみ、志をもったたくましい人間を育成します。  
◆ すべての住民が、みどり豊かな「ふるさと三芳」に誇りと愛着を持ち、豊かな人生を送るために生涯にわたって主体的に学び、その成果を活かすことのできる活力ある地域社会をつくりまします。

を目標に設定、達成のため諸施策を総合的に展開し「三芳教育」の実現を図ります。  
問い合わせ 教育総務課（内線535）

今日、国際化・情報化、少子高齢化や核家族化、地球環境問題など、社会が大きく変化しています。また、人間関係の希薄化、家庭や地域の教育力の低下、そして、子どもたちの学力や体力、コミュニケーション能力、規範意識の低下などの喫緊の課題が多くあり、今後、さらに様々な激しい社会の変化が予想されます。

このような社会の変化や教育を取り巻く今日の課題に対して、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割と責任を果たし緊密な連携のもとに、自らの人生を切り拓き、郷土を愛し心豊かでたくましく生きる三芳の子どもたちを育成するためには、新しい教育基本法の「生きる力」という理念のもとに、小中一貫教育等の取組を進めるなど「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな身体」の調和のとれた教育が必要です。

また、全ての住民が、豊かな人生を築くために生涯を通じてあらゆる場で主体的に学び続けるとともに「ふれあい、学びあい、支えあい」の多様な学習活動に取り組み、みどり豊かな自然や伝統文化を、ふるさと三芳に誇りと愛



着を持ち、住民参加と協働による活力あるまちづくりを推進することが重要です。

こうした認識に立ち、今後も、三芳町教育委員会は、国や県の取組や提言、「生きる力」と絆の埼玉教育プラン」等を踏まえるとともに、三芳町第4次総合振興計画の基本計画Ⅲ「豊かな生涯学習をはぐくむまちづくり」にそって、「豊かな知性と感性をはぐくむ三芳教育」の実現を目指し、次のような目標を立て、教育行政の推進に積極的に取り組んでまいります。

#### 1 めくもりのある豊かな地域社会の実現

高度情報化、国際化、少子・高齢化などの変化の激しい社会のなかで、豊かでゆとりのある地域社会の構築を目指します。住民の多様化・高度化する学習意欲に対応できるように、学習機会の提供や学習内容・学習方法の改善充実、さらに、学校・家庭や地域、大学、企業等との連携を図り、協働によるまちづくりを積極的に推進します。

- ◆ 社会教育の充実
- ◆ 青少年育成の充実
- ◆ 公民館の運営改善と充実
- ◆ 町立図書館サービスの充実
- ◆ 資料館活動の推進と充実



#### 2 創意ある学校経営の充実と教育環境の整備・充実

校長のリーダーシップの下に、学校の組織力の強化を図り、経営力や教育力を高めるとともに、教育への情熱・使命感、専門的な指導力、豊かな人間性を備えた教職員の育成に努めます。また、小・中学校の9年間の連続性を重視した、小中一貫教育の導入に向けた取組を推進していきます。さらに、家庭や地域の人々、企業や大学等との連携を深め、信頼される質の高い教育の推進に努めます。また、教育環境の整備・充実や地域人材の活用を積極的に進め、地域に根ざした特色ある学校づくりを推進します。

- ◆ 地域に開かれた特色ある学校づくり
- ◆ 小中一貫教育の推進
- ◆ 教職員の資質・能力の向上
- ◆ 学校環境・教育施設の整備・充実

#### 3 確かな学力と自立する力をはぐくむ教育活動の充実

新しい学習指導要領の趣旨を

踏まえ、確かな学力と自立する力をはぐくむために、児童生徒一人一人に基礎・基本を徹底し、思考力・判断力・表現力の育成を目指して、創意ある教育課程を編成し、体験活動や言語活動の充実等指導方法の工夫・改善に努めます。また、児童生徒が確実に身に付ける、教育に関する3つの達成目標「学力」「規律ある態度」「体力」に取り組み、「知・徳・体」の調和のとれた特色ある教育活動を一層推進し、生きる力の育成を図ります。

- ◆ 確かな学力をはぐくむ学習過程・指導方法の工夫・改善
- ◆ 国際性をはぐくむ教育の充実
- ◆ 特別支援教育の充実
- ◆ 進路指導・キャリア教育の充実

#### 4 人権を尊重し豊かな心をはぐくむ教育の推進

子どもから高齢者に至るすべての住民の生涯にわたる様々な教育活動を通して、人権尊重の意識を高めるよう努めます。また、児童生徒の人間性や社会性をはぐくむため、学校教育活動、社会体験活動などを通して「命を大切にす

る心」の教育の充実を努めます。さらに、生徒指導・教育相談体制の充実を図り、いじめ・不登校などの問題に積極的に取り組みます。

- ◆ 人権を尊重する教育の推進
- ◆ 地域社会における人権教育の推進
- ◆ 豊かな心をはぐくむ道德教育の充実
- ◆ ボランティア・福祉教育の充実
- ◆ 生徒指導の取組の充実
- ◆ 教育相談活動の充実

#### 5 家庭・地域の教育力の向上

学校・家庭・地域社会がそれぞれこの教育力を生かし、連携・協力しながら基本的な生活習慣や正義感、規範意識や他人を思いやる心などを持った児童生徒の育成を図るため、家庭教育や地域活動の支援に努めます。また、青少年の健全育成を図るために住民一人一人の関心を高め、地域や関係機関等との連携を図り、住民とともに地域の活性化につながる顔の見える関係づくり、活力ある地域づくりを推進します。

- ◆ 家庭・地域の協力支援体制の充実
- ◆ 奉仕活動・体験活動の充実

#### 6 文化財保護と郷土学習活動の推進

先人たちの築きあげてきた歴史や文化を伝える文化財を調査し、保存することは、町の歴史や文化を知るためだけでなく、町の将来の姿を描くためにも大切なことです。大切な文化財を調査し、正しく伝えるための適切な保存と、文化財を活用した郷土学習と文化財愛護活動の充実を図ります。

- ◆ 文化財の調査保存の推進
- ◆ 文化財の保護計画の推進
- ◆ 文化財の活用と郷土学習の推進

#### 7 健やかな体をはぐくむ健康教育の推進

学校の教育活動全体を通して、子どもたちの健康の保持増進、体力づくりなどの推進に努めます。また、学校におけるスポーツ活動の活性化はもとより、子どもがスポーツ・レクリエーションに親しめる機会をつくり、健康で明るく活力に満ちたスポーツ・文化活動を推進します。

- ◆ 学校体育施設の活用
- ◆ 学校体育・健康安全教育の推進
- ◆ 学校給食の充実





4月の予定

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7

〈中央図書館〉  
**＜新年度としゃかん・くらぶ会員募集！＞**  
 第4土曜日に開催（4、7、9、12月を除く）  
 ＊10:10～11:00 1・2年生 35人  
 ＊11:10～12:00 3～6年生 40人  
 内容/本語の読み聞かせとブックトークで本に親しみます。  
 申込/4月8日(金)14:00から中央図書館にて受け付け。電話不可。  
 本人か家族のみ申し込みます。

ぐりぐらタイム  
 (絵本・紙芝居・手遊び・本の紹介)  
 第1・3金曜日  
 11:00～11:15 6ヶ月～1歳(保護者同伴)  
 11:20～11:40 2・3歳～(保護者同伴)  
 第2・4火曜日 16:00～16:30 3歳～小学生  
**♣かにかにこそこそ**  
 (昔話などを覚えて語る練習会)  
 第3水曜日 10:00～12:00 大人対象  
**★おはなしはじめのいっば** 一日参加～  
 ～覚えてみたい楽しいお話がいっぱい～  
 (小さいお話(語り)、手遊び、わらべうた)  
 11:00～11:30 語りに興味のある方、聞くだけの方、どなたでも(赤ちゃん連れOK)

〈竹間沢分館〉  
 ぐりぐらタイム  
 (絵本・紙芝居・手遊び・本の紹介)  
 第4火曜日  
 11:00～11:30 6か月～3歳(保護者同伴)  
**◆スイミーおはなし会**  
 (絵本・紙芝居・手遊び・本の紹介)  
 第4木曜日 16:00～16:30 4歳～小学生

**【地域文庫のお知らせ】**  
 (児童書の貸出、お話会など。)  
**つくし文庫**・4月16日(土)、10:00～12:00  
 場所/上富1区第1集会所にて  
**あらた文庫**・毎火曜日 15:30～18:00  
 場所/荒田自宅にて  
 (藤久保536-4 三芳東中学校近く)



〔一般書〕「パンダの死体はよみがえる」(しくま新書)

遠藤秀紀 著  
 筑摩書房 2005年2月初版発行  
 請求記号 一般S481.1  
 くま科のパンダが竹を掴めるのは、パンダに親指に当たる「偽の指」があるからだ、長年信じられてきました。ところが、パンダの遺体解剖を担当した著者が真実を発見したのです。



〔児童書〕「コパンダちゃん」(童野ほんだ写真集)

童野ほんだ 撮影  
 リトルモア 二〇〇六年七月初版発行  
 請求記号 児童E13.1.1  
 上野動物園にやってきましたパンダの故郷は、臥龍中国パンダ保護研究センター。本書は、そこでパンダの暮らしがわかる楽しい写真集です。パンダの子育て豆情報も見逃せません。



〔一般書〕「物語上野動物園の歴史」

小宮輝之 著  
 中央公論新社 二〇一〇年六月初版発行  
 請求記号 一般S48.0  
 明治五年、湯島の展覧場にオオサンショウウオを展示して以来、140年の歴史を誇る上野動物園。その激動の歴史を、初めてのゾウ、トラ、パンダなど動物のエピソードとともに語ります。



〔児童書〕「パンダの手には、かくされたひみつがあった!」

山本省三文 喜多村武絵 遠藤秀紀監修  
 くもん出版 二〇〇七年七月初版発行  
 請求記号 児童E13.1.1  
 「パンダの死体はよみがえる」の著者、遠藤氏が新発見をするまでの研究内容を子どもたちに紹介する本。動物の体の不思議や進化の秘密を明らかにしていくこと面白さが伝わってきます。



★午後の部 絵本・紙芝居・人形を使ったわらべうた  
 ①10時30分/10時55分:えほんの部屋(1・3才向き)  
 ②11時/11時15分:自転車紙芝居(図書館前広場)  
 ③11時20分/正午:えほんの部屋(4才/小学生向き)  
 ④正午/12時15分:自転車紙芝居(図書館前広場)  
 ＊午後の部 映画会「ぐるんぱのようちえん・プレイメンのおんがくたい他」  
 上映時間:午後1時/1時50分/午後2時10分/3時  
 ＊家族そろってのご参加をお待ちしています。



☆えほんワールド 子ども読書の日記念事業

4月17日(日)中央図書館にて



みよし歴史探訪  
**文化財を訪ねて**  
 第一回 大石燈籠

この大石燈籠は、天保四年(一八三三)、農作物の神として信仰されていた大石尊大権現(現伊勢原市大山阿夫利神社)に献灯し、雨乞いと五穀豊穣を祈願するため、上富村一同により建立された。記録によると、建立費用には年貢の余剰分二十四両が充てられ、引保町(現志)

木市)の石工・藤兵衛により製作されました。しかし、燈籠設置三日目にして笠の部分が落ちて破損したため、笠部分のみ造り替えられたと記されています。破損した元の笠部分は、上富の天王様(旧島田家住宅東側)の手水鉢に転用されています。

その後、大石燈籠は移転を繰り返します。大正六年(一九一七)に交差点の南隅に移され、昭和になって交通量の増加に伴い、交差点より十メートルほど南に移設されました。平成二十三年二月、県道の歩道整備に伴い、現在の上富中下子供広場入口脇に移設され、ようやく安住の地を得ることができました。

国境を越えた“絆”  
**教育トピックス**

遠く離れていても、心と心は結びついている。国境を越えた絆を感じ、心温まる思いをしました。三芳町の3つの中学校合わせて992人の気持ちがあり、遠くオーストラリア・ブリスベンのアスコット小学校の子どもたちにも届けたい。待ち遠しく感じられます。

三芳町からは海外派遣団として中学校3年生が、オーストラリア・ブリスベンのアスコット小学校を訪れ、アスコット小学校からは親善訪問団として小学校5・6年生が日本にやってくる相互交流が続いています。ホームステイをしたり、名所旧跡を訪れたりして、それぞれの国のことを学んできました。昨年6月28日から7月6日までの9日間、アスコット小学校から12名の少年少女が親善訪問団として三芳町にやってきました。三芳町からの中学生海外派遣団は平成21年度の新型インフルエンザの流行により見合わせています。三芳町からの中学生海外派遣団は平成21年度の新型インフルエンザの流行により見合わせています。三芳町からの中学生海外派遣団は平成21年度の新型インフルエンザの流行により見合わせています。三芳町からの中学生海外派遣団は平成21年度の新型インフルエンザの流行により見合わせています。

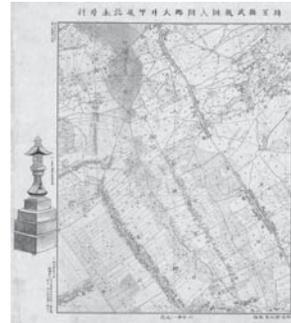


平成23年1月、オーストラリアの北東部が豪雨による大洪水の被害に遭ったことは記憶に新しいことと思います。この洪水は1月13日にはオーストラリア第3の都市ブリスベンに達しました。このニュースを耳にした三芳東中学校の生徒会長から、三芳中学校、藤久保中学校の生徒会長に、三芳町の中学校3校合同で募金活動しようということが提案されました。提案を受けた2校の生徒会長も、その意図をくみ取り快く提案を受け入れ、即行動に移しました。

の初めての試みで、三芳町とは平成5年から交流を始めたオーストラリア・ブリスベンのアスコット小学校への支援のためのもです。

各校の募金活動は今まで行ったどの募金活動より意欲的に行われました。やはり、過去の交流により培われてきた絆が、あったため、より身近なことでして受け止めたからに違いありません。3校合わせて99,339円の募金が集まりました。募金だけではなく、励ましの言葉を集めた色紙や応援のメッセージを書いた旗などと一緒に送ろうとしています。

今月号より、歴史探訪シリーズとして、町内に残る文化財を紹介していきます。上富のけやき並木通りを行くと、上富中下子供広場入口脇に大きな石燈籠が見えます。今回は、平成十七年に町指定文化財となり、本年二月に移設された大石燈籠にスポットを当てて紹介しましょう。



や著名な建物などについてスケッチが添えられており、上富部分の図には、この大石燈籠が描かれていることから、際立った存在であったことがうかがえます。